

たま おか こ ふん

# 玉丘古墳現地説明会

資 料

令和7年3月15日（土）  
加西市教育委員会



たまおか こふん

## 玉丘古墳



玉丘古墳は、4世紀末～5世紀初頭頃（古墳時代中期）に築かれた全長約109mの前方後円墳です。後円部には、「王者の棺」といわれる長持ながもち形石棺がおさめられており、地元の「高室石」たかむろいしで作られていました。これらのことから、当時の中央政権と強いつながりを持った地域の有力者の墓であると考えられます。

たまおか こふん ぐん

## 玉丘古墳群

玉丘古墳の周辺には、大きさ・形さまざまな古墳が見つっています。これらは玉丘古墳群と呼ばれ、玉丘古墳の築造を契機に、5～6世紀のあいだに次々と築かれたことが分かっています。そのうち、玉丘古墳を含む10基は玉丘古墳群として国の史跡せきに指定されており、加西市教育委員会では整備や調査を進めています。



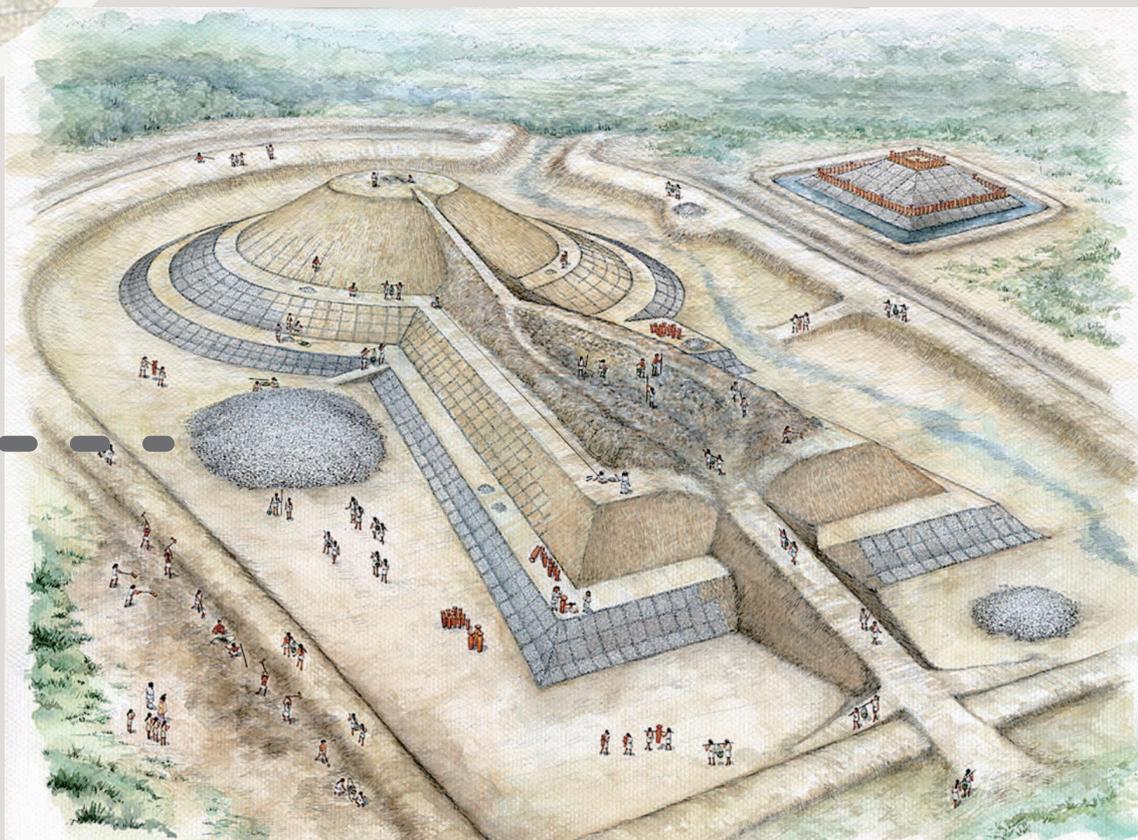
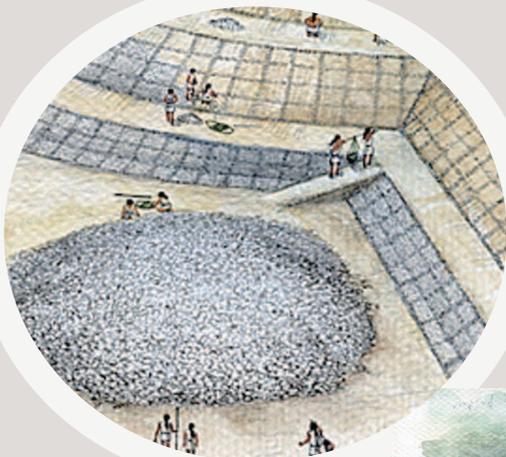
# 姿を現した<sup>ふきいし</sup>葺石

加西市では、令和6年度史跡玉丘古墳群整備事業の一環として、玉丘古墳<sup>しゅうごう</sup>の周濠の水を抜き、墳丘の状態を確認する調査を実施しました。その結果、墳裾<sup>ふんすそ</sup>にずらりと並んだ「葺石<sup>ふきいし</sup>」が見つかりました。上から転落した石もありますが、比較的よく残っており、築造当時（約1600年前）における玉丘古墳の姿を探る大きな手がかりを得ることができました。



## こふん ふきいし 古墳と葺石

葺石は、古墳の表面に敷き詰めるように葺かれた（貼られた）石です。古墳を装飾したり、崩れるのを防いだりすることが目的といわれています。河原石を用いることも多いですが、玉丘古墳では、近くの山から採った「高室石」を用いているようです。



玉丘古墳築造風景のイメージ  
(小東憲郎 画)



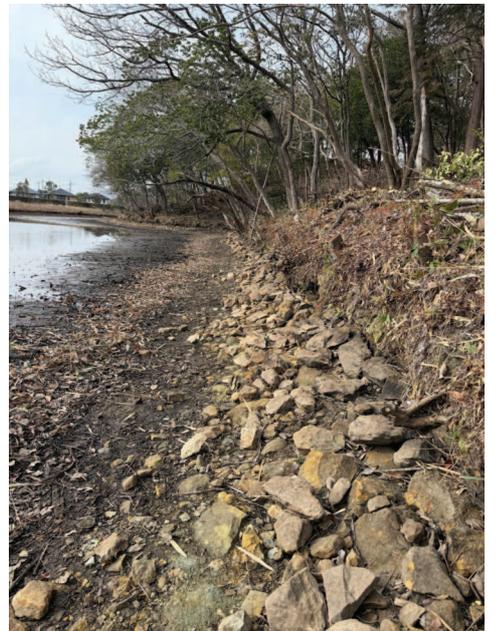
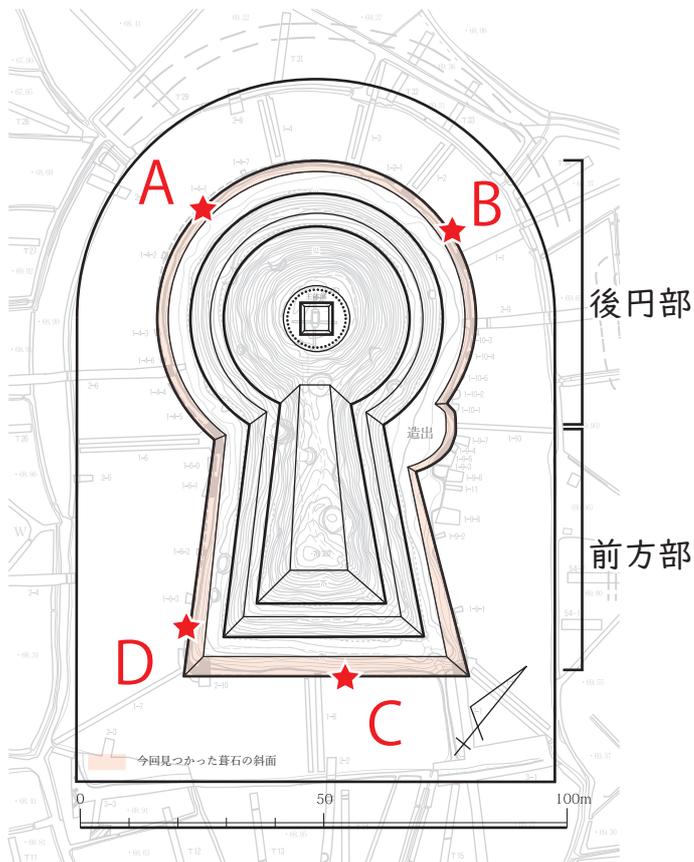
A 後円部西側



B 後円部北側



C 前方部前面



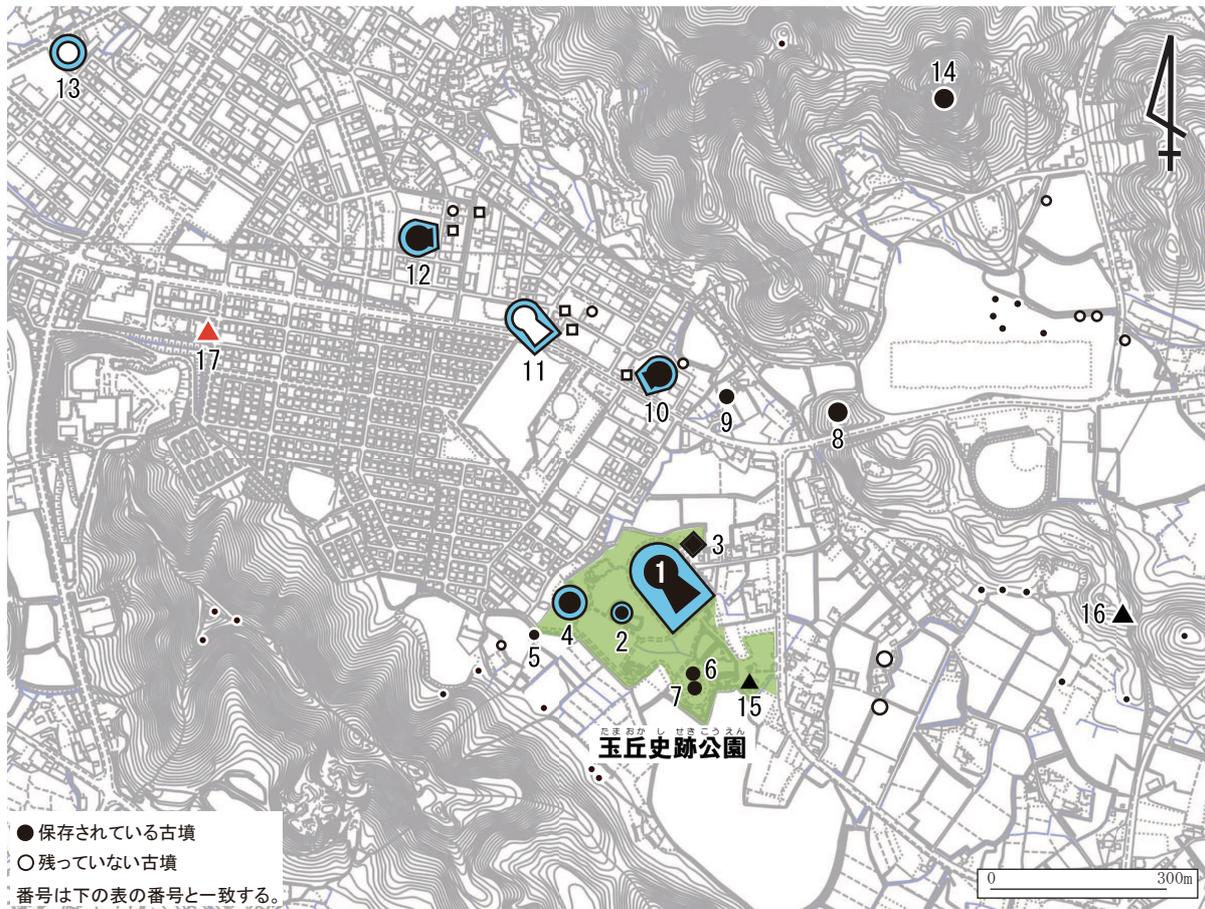
D 前方部西側



昭和 51 年の調査で見つかった葺石

これまでに実施した発掘調査でも、墳裾に葺かれた葺石が見つっています。それによると、一番下（外）側に大きき 50cm にも及ぶ大きな石（基底石）を据え、その上に、より小さな石を積んでいたようです。

# 玉丘古墳周辺の古墳と文化財



- |                                     |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1 玉丘古墳 (全長109mの前方後円墳)               | 2 玉丘古墳陪塚Ⅰ号墳 (直径25mの円墳)   |
| 3 玉丘古墳陪塚2号墳 (一辺24mの方墳)              | 4 クワンス塚古墳 (直径35mの円墳)     |
| 5 実盛塚古墳 (直径21mの円墳)                  | 6 壇塔山古墳 (直径17mの円墳)       |
| 7 芳ヶ端下古墳 (直径18mの円墳、横穴式石室)           | 8 北山古墳 (直径28mの円墳)        |
| 9 逆古墳 (直径30mの円墳)                    | 10 マンジュウ古墳 (全長46m帆立貝式古墳) |
| 11 小山古墳 (全長79mの前方後円墳、消滅)            | 12 笹塚古墳 (全長52mの帆立貝式古墳)   |
| 13 ジヤマ古墳 (直径53mの円墳?、消滅)             | 14 亀山古墳 (直径45mの円墳)       |
| 15 愛染古墳 (佐谷町にあった横穴式石室古墳を移築)         |                          |
| 16 山伏峠石棺仏 (長持形石棺と家形石棺の蓋石を利用した石棺仏)   |                          |
| 17 加西市埋蔵文化財整理室 (玉丘古墳群や加西市の埋蔵文化財を展示) |                          |



12 笹塚古墳



16 山伏峠石棺仏

史跡玉丘古墳 現地説明会資料（令和7年3月15日）

---

加西市教育委員会 生涯学習課

〒675-2395 加西市北条町横尾1000（TEL：0790-42-8775）